



第79巻 第2号
年4回発行
社会福祉法人 慈生会
〒165-0022
東京都中野区江古田3-15-2
TEL 03-3387-5567
<http://www.jiseikai.jp>
振替口座 ベタニアの家
00170-6-15317

慈生会「清瀬地区」の 広々とした環境を大切にしたい

櫻井 正昭

昨年の一二月一二日は、慈生会の創立者フロッジャク神父が亡くなられて、ちょうど六〇年のご命日でした。その機会に、私なりに改めてこの事業の草創期を振り返ってみました。

神父はフランスのパリ外国宣教会から、一九〇九年二三歳の時に、日本のカトリックの宣教のため、関東一円を管轄する当時の東京教区に派遣されました。来日九年目に関口教会の主任司祭として赴任され、教区全般にわたって、中心的な役割を担っておられました。来日一八年目の一九二七年七月に、たまたま他の神父に代わりを頼まれて、結核で入院中の関口の青年信徒を見舞うため、東京市立中野療養所を訪れて、初めて結核患者が置かれていた悲惨な状況を目のあたりにして強く心を動かされました。その後は自発的に毎週金曜日に通い、やがて全患者を見舞う

ようになりました。

当時の結核は強力な伝染病で、しかも致死率も非常に高く、療養所は言わば隔離施設で、一年足らずの一定の期間が経過すると退院を強制され、その日が近づく、行き場のない患者が敷地内の裏山で自ら命を絶つケースが多発していました。

このような現実を突きつけられた神父は、二年後に旧野方町丸山に民家を借りて、五名の男性患者を受け入れ、翌年の一九三〇年六月には療養所の近くに「ベタニアの家」を新築して、男性患者一五名を収容されました。慈生会事業の始まりです。また神父の心に動かされて、関口教会の女性信徒の集まり「ロゼッタ姉妹会」ができ、献身的に事業を手伝いましたが、このグループが、現在のベタニア修道女会の原点です。ところが地元に住民にとっては、療養所の存在自体を嫌悪していたところに、その近辺で得体のしれない外人神父と若い女性の集団が、忌避すべき結核患者を世話していること

に不快感を抱き、地域からの追放の動きを活発化させました。

神父は療養所周辺の事情も踏まえて、新たに清瀬村に土地を求め、回復期の患者のために療養農園「ベトレヘムの園」を開設しました。当時のこの地域は雑木林が広がり、清澄な空気が結核の回復に効果があるという地理的条件から、結核病院が次々と建てられました。戦後は治療薬の進歩で、急速に患者数が減少しましたが、現在も大半が一般病院として存続しています。

私は業務上しばしば清瀬を訪れますが、その度にフロッジャク神父が土地を手に入れた頃の景色に想いを馳せます。私個人としても、この地とは浅からぬ縁があります。私の母は、私が三歳になったばかりの時に、粟粒結核で入院していた旧「清瀬病院」で亡くなりました。生後すぐに祖母に預けられたので、実母の記憶が全くありませんが、さぞかし心残りだったろうと胸が痛みます。

また私が一九九八年の一月に受けた練馬区の成人病検診で、肺がんが見つかり、死の恐怖に襲われましたが、清瀬の「複十字病院」を紹介され、急きょ三月上旬に手術を受けました。幸いに成功して生きながらえることができ、今があります。月末には一旦退院しましたが、五週にわたる放射線照射のため五月の連休明

けに再入院することになりました。初めの退院の時、手術を担当した主治医のドクターWから「次に来る時は、この周辺はエゴノキの花が見頃ですよ」と思いもかけない花の名を告げられ、病気の不安を和らげるには、自然の移ろいに目を向けるゆとりが必要であることを知りました。

病院に戻った時、何とそのW医師は他所に移られ、再会はできませんでしたが、確かに可憐に垂れた満開の白い花が印象的でした。私の病棟は「清瀬松山緑地保全地域」の樹林に接していて、新緑の小道を術後の回復を祈りながらよく歩きました。また病院の向かい側の旧清瀬病院跡地にある「国立看護大学校」の周辺にも樹林が続いていて、少し離れた「東京病院」も、こんもりとした森林に囲まれています。フロッジャク神父が足を踏み入れられた当時は、このような雑木林が延々と続いていたものと想像されます。

現在の慈生会「清瀬地区」には、「ベトレヘムの園病院」を始め、乳児院「ナザレットの家」と児童養護施設「ベトレヘム学園」、高齢者施設「聖ヨゼフ老人ホーム」と「聖家族ホーム」があり、構内の「第一修道院」の横には、かつての姿を彷彿とさせる雑木林があります。神父が残して下さった広々とした環境を、今後とも大切にしたいと思います。

(慈生会常務理事)

放課後等デイサービス エスポワールの歩み

阿部 海渡

記録的な暖冬による雪不足とは言え、茶臼岳の麓に位置する那須町は、冷たい北風に乗って雪が舞います。学校にお迎えに行き、エスポワールに到着するころには日も西に傾き、冬らしい寒さに身を包まれますが、子ども達は元気に庭へと駆け出していきます。

平成三十年四月に開所したエスポワールは開設三年目を迎えようとしています。現在、那須町や近隣の市町から二四名のお子さんが通って下さっています。全国的に開設が相次ぐ放課後等デイサービスですが、那須町にはエスポワールを含め二事業所しかありません。療育を必要とするお子さんたちの居場所が必要という地域のニーズを受けての開設でした。しかし、開設当初の稼働はおよそ二十％。制度は知られていても、どのような事業者がどんなサービスを提供してくれるのか、利用に際してはどのご家族も慎重に思案なさったのだと思います。それでもご家族同士の口コミや学校関係者の方々に知っていただけるようになり、また一人、また一人とご利用いただけるようになりました。初めて定員人数を満たしたのは平成三十一年一月七日。昨年の十一月には月間の稼働が一〇

〇％となりました。ゆっくりとした足並みであったかもしれせん。しかし、明日もエスポワールに行きたい、そんな温かい声が一步步つエスポワールを成長させてくださったと感じています。

僅か二年の間ですが、エスポワールに通って下さるお子さんたちの目覚ましい成長に幾度と立ち会わせていただいたように思います。自分の気持ちを表現することが苦手な時に粗暴な言動で示していたH君、中学生になり他のお子さんたちを気遣う姿が日常になりました。賑やかさが苦手で一緒に部屋にいる事も苦痛に感じてしまったS君、今では仲間の肩に腕を乗せ笑顔を見せています。エスポワールで初めてよさこいに触れたE君、光舞隊に参加し演舞できる日を心待ちにしています。一步一步の成長をご本人、ご家族と共有できることが私たちの喜びとなりました。



今年もたくさん的一步に気付かされることと思います。ご本人に寄り添い、エスポワールも一步一步歩みを進めていければと願っています。今後ここに通うお子さんたちとともにエスポワールの成長を温かく見守って下さいますようお願いいたします。

(エスポワール児童発達支援管理責任者)

地域包括支援センターの 役割と現状について

野崎 博人

江古田地域包括支援センターは、四月で開設後、丸一四年が経過しました。現在、社会福祉士・看護師・主任ケアマネジャー・ケアマネジャーの資格を持った専門職八名と、事務員一名の計九名で、日々寄せられる高齢者に関する様々な相談に対応しています。

一五年目に入り、センターの名前はだいたい浸透してきましたが、まだ馴染みの薄い方もいらっしゃるかと思いますので、この紙面を利用して、センターの役割について、簡単に説明させていただきます。

地域包括支援センターは、区市町村が設置する公的な機関で、六五歳以上の高齢者の「よろず」相談の窓口です。

具体的な役割としましては①高齢者の総合相談（介護保険に関する相談や申請、認知症に関する相談など）②権利擁護（消費者被害や虐待等で、権利侵害を受けている高齢者を守ること）、③要支援等の認定を受けている方への予防サービス計画の作成④地域のケアマネジャーに対する支援（困難ケースに関する相談支援や個別事例検討会の開催など）⑤地域

のネットワーク作り（様々な関係機関と連携し、高齢者が暮らしやすいような地域を作ること）など、非常に多岐に渡っています。

また、支援が必要にも関わらず、介護保険につながらない高齢者宅への訪問や、窓口業務として区の高齢福祉サービス（オムツサービス、緊急通報システムなど）の申請受付なども行なっております。

中野区では区域に応じて、江古田を含め、合計八か所地域包括支援センターが設置されていますが、二〇一九年三月時点で、江古田包括区域の高齢者人口は約九千人、高齢化率は約二十二％となっており、いずれも平均より高い数字になっています。相談件数も年々増加し、内容も複雑になっている傾向にある為、職員一人一人が自己研鑽に努め、スキルアップを図ることが求められています。

予測では、二〇四〇年頃まで高齢者人口は増加する見込みです。地域の高齢者に住み慣れた地域で安心して暮らし続けていただく為に、私たち包括職員の果たす役割は今後、ますます大きくなっていくと思われます。

もし身近に何らかの支援が必要なお高齢者の方がいらっしゃいましたら、早めに最寄りの地域包括支援センターにご相談下さい。よろしくお願い致します。

(中野区江古田地域包括支援センター所長)

―院内の小さな声を集めて よりよい業務へ― 現場主導型の電子カルテ 導入の試み

後藤 佐恵子

ベトレヘムの園病院では電子カルテの導入を検討しています。

二年前に「薬剤科と検査科の機器更新をする時期だが、この際部署だけではなく病院全体でシステムを考えたい方がよいのではないか」という小さな声をきっかけとして病院の全部門で電子カルテの導入を検討しようというプロジェクトを立ち上げました。

最初は手探りの出発で、電子カルテメーカー八社からの話で電子カルテの内容を理解し、他院への見学で運用方法や長所短所を知り、インターネットや専門書、友人など身近な手段を使い情報収集や勉強をした結果、導入するには自分達に必要な機能は何か、どのように運用するかをしっかりと考える必要があるとわかり、現在の業務を振り返り、電子カルテで行う業務と運用を考えて要望書・仕様書を作成しメーカーに提出しました。現在は仕様書の回答を踏まえた議論を行い、メーカー選定まで進めています。

病院では医師がトップでその指示により治療等を行うので職員はトップ

プダウン型で業務を行っています。

自分達で考えていく「ボトムアップ型」の作業は苦手です。現場の意見は反映されますが、プロセス過程での業務量は多く時間もかかります。また各部門が最適になろうとするので病院全体としての議論も必要です。

二年の間には、指示がないからできない、早くメーカーを決めてほしいなどのトップダウン型に戻ってしまう職員が度々現れたり、業務量増加に悲鳴をあげたり、うまくいかないことも沢山ありましたが、自ら行う沢山の作業と議論の繰り返しを通して、電子カルテ導入の検討にとどまらず、部門間の連携を確認して改善したり、業務の手法を変えた部門もありました。職員は小さな気づきや不都合に当事者意識をもって向き合うと、大変なこともあるが求める方向へ改善されていくということを経験しました。今後はボトムアップ型の業務を苦労なくできるように、経験を積むことが必要だと考えています。

電子カルテが導入されると、より質の高い安全な医療を提供できるようになります。

導入後は当院が目指すあたたかい医療を誠実に行うために、小さな気づきを見逃さずに自分から改善してよりよい業務を行う組織になっていく努力を、全職員一人一人が実践していくことが必要だと思います。

(ベトレヘムの園病院薬剤科長)

“ごみ減を合言葉に”

シスター・中野 利恵

海風におおられる東京都の埋立処分場の見晴らし広場に「限りある埋立空間 大切に」の碑があります。広場の目の前に広がる新海面処分場と東京湾に向かって見学者は「ごみを減らすぞ」と誓って叫ぶのが恒例になっている場所でもあります。

修道院のごみ出しを担当している私は、清掃職員さんが清掃車に手際よく積み込んだごみのその後を知りたかったので一月末シスター十四人と処分場見学に行きました。

◆新江東清掃工場

一日一八〇〇トの可燃ごみ焼却能力があり、日々二四時間八〇〇度以上で稼働し、ごみ容積が二十分の一になった焼却灰は新海面埋立処分場(有明の先の東京湾の中)に埋められ、一部はセメント原料として資源化されています。



高度成長とバブルの影響で社会システムやライフスタイルが大量生産・大量消費へと変化し、ごみ量が急増。平成元年をピークに減少しているものの、

それでも今のごみ量のままではあと五十年で埋立地はいっぱいになると聞きました。でも東京湾はまだまだ広いのにと考えたのですが、すでに東京都の海域ギリギリまで使っていて、航路水域も必要のため、これ以上拡張できないと分かりました。

◆中防不燃ごみ処理センター

不燃ごみは容積を小さくするため高速回転ハンマーで一辺十五センチ以下に破碎し、磁石で鉄やアルミを資源回収し、残りは埋立処分場へ。

◆粗大ごみ破碎処理施設

粗大ごみで一番多いものは布団。次が箱物家具、椅子。これらを可燃系と不燃系に分別後、破碎します。置は機械でアツという間に四角くカットされ、マットレスはスプリング部分が破碎機を痛めるため全て手作業で解体していました。ここでも資源は回収し、焼却できるものは清掃工場へ、焼却できない残りは埋立処分場になります。



将来も処分場が長く使えるよう残すには今何もしなければ結果は見えてきます。改めて資源ごみの分別徹底、ごみになるものは買わないなど“ごみ減”を目指します。

(ベタニア修道女会)

ベタニアの家

四月行事予定

1日 慈生会 新任職員

オリエンテーション

5日 ☆受難の主日(枝の主日)

世界青年の日

8日 東星学園中高校 入学式

9日 ☆聖木曜日

10日 ☆聖金曜日

11日 ☆聖土曜日 復活徹夜祭

12日 ☆復活の主日 入学式

13日 東星幼稚園 入園式

16日 ベトレヘムの園病院 復活節祈りの集い

19日 ☆神のいつくしみの主日

26日 ベタニア宣教センター主催 聖書講座・ルカによる福音I

伊藤 淳神父

29日 《昭和の日》

29日 《5月1日 東星学園 ヨゼフ祭

五月行事予定

1日 ☆労働者聖ヨセフの祝日

東星学園 創立記念日ミサ

3日 ☆世界召命祈願の日

《憲法記念日》

4日 《みどりの日》

5日 《こどもの日》

11日 聖ヨゼフ山の家

一般信徒黙想会

17日 ☆世界広報の日

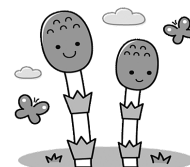
徳田教会「教皇メッセ」

学習会

20日 ベトレヘムの園病院 講師 森一弘司教

公開健康講座

「役立つ福祉情報シリーズ」



21日 ベタニア宣教センター主催 春の展示即売会

22日 ◇アースデー

23日 東星学園小学校 運動会

24日 ☆主の昇天

ベタニア宣教センター主催

聖書講座・ルカによる福音II

伊藤 淳神父

31日 ☆聖霊降臨の主日

六月行事予定

5日 ◇世界環境デー(国連・環境の日

(環境省)

6日 東星幼稚園 うんどうかい

7日 ☆三位一体の主日

10日 慈生会 理事会

14日 ☆キリストの聖体

17日 慈生会 職員研修

「キリストの心に

触れるパートI」

指導 ベタニア修道女会

19日 ☆イエスのみ心

ベタニア修道女会

25日 慈生会 評議員会

26日 ベタニアの家創立記念ミサ

28日 栃木県北3教会合同堅信式

マ・メゾン光星ホール

ベタニア宣教センター主催

聖書講座・ルカによる福音III

伊藤 淳神父

29日 ☆聖ペトロ聖パウロ使徒

お知らせ

令和二年より、「ベタニアの家」へ頂いたご寄付は、寄付金控除の対象となりません。

金 祝・銀 祝

二月十五日、大倉神父様の司式により聖ベルナデッタ修道院聖堂において金・銀祝者の感謝のミサがささげられました。

創立者フロジャク神父様の生き方に倣って、これからも神の小さな道具として教会の中で最も小さな者にふさわしい役割を引き受け果たしていきます。感謝のうちに。

金祝者

シスタールフィナ 塚越 昭子

シスターマルコ 藤田 怡美子

シスターヤコバ 坂井 みき

シスターロベルタ 千葉 新子

シスターコルンバ 菊地 洋子

シスターバルナバ 武田 公子

シスターレオナルダ 富田満壽子

銀祝者

シスターエディット 富田満壽子

(ベタニア修道女会)

銀祝者 富田満壽子

シスターエディット 富田満壽子

富田満壽子

富田満壽子

富田満壽子

富田満壽子

富田満壽子

富田満壽子

富田満壽子

富田満壽子

富田満壽子

富田満壽子

富田満壽子

富田満壽子

富田満壽子

富田満壽子

富田満壽子



編集後記



利を得ることはできません。間もなく復活祭を迎えようとしている今、数々の困難に立ち向かう健全な心と身体を育てることができるよう努力したいと思っています。

今年度の灰の水曜日『聖書と典礼』に柳田敏洋師の寄稿があった。「食物はどんな食べられ方をしようとも文句を言わず、感謝の一言も求めず、噛み砕かれ、自分の姿を全く消し去り、新しい命として私たちの食卓に蘇る」。まもなくキリストの食卓に万国の老若男女が集って主の死からの復活の神秘を祝う。神様、世界中安心して迎えられる復活祭でありますように。

(原田 直人)

新型コロナウイルス感染症の拡大で、ベタニアホーム、ケアハウス慈しみの家は、二月中旬からご家族の面会中止、職員は出勤前の検温、風邪症状の有無の確認を始めております。いつまで続くのかという不安の中で、利用者の皆さんが変わりなく過ごされているのが何よりの励みになっています。この瑠璃草が皆さんの手元に届くころには、終息の光が見えてきていればと思ったりしています。

(中村 英男)